

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Sex differences in the proportion of esophageal squamous cell carcinoma cases attributable to tobacco smoking and alcohol consumption. 喫煙とアルコール摂取に起因する食道扁平上皮癌症例の性差		
執筆者		
Pandeya N, Olsen CM, Whiteman DC.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol. 2013 Oct;37(5):579-84. doi: 10.1016/j.canep.2013.05.011.		
キーワード		PMID
アルコール、食道がん、人口寄与割合、たばこ		23830137
要 旨		
<p>目的： アルコールとたばこは、食道扁平上皮癌 (ESCC)と関連する 2 つの主要な確立された環境因子である。しかし、これらの暴露を受けている割合は、男女間で実質的に異なる。さらに、喫煙率は近年減少している一方で、一人当たりのアルコール摂取量は男女ともに一定のままである。これら因子に起因する ESCC の割合を定量することは、潜在的な予防戦略に必要である。</p> <p>方法： オーストラリアの集団ベース症例対照研究におけるデータを用い、喫煙とアルコールによる ESCC の人口寄与割合 (PAF)を推定した (ESCC 305 例、対照 1,554 例)。</p> <p>結果： ESCC の推定 PAF は、喫煙 49% (95CI: 38-60)、大量アルコール摂取 32% (95%CI: 25-40)であった。男性において、ESCC の 75%以上は大量アルコール摂取している喫煙者によるものである可能性があった。ESCC の発症は大量アルコール摂取(>17 回/週)かつ 30 箱年(毎日 20 本一年喫煙で 1 箱年とする)以上の喫煙の群によってもっとも多く説明できた。しかし男性では 4 割弱 (PAF36%, 95CI: 29-44)を説明できたが女性では 5% (PAF 5%, 95%CI: 2-10)で、有意に男女差が認められた。女性においては、果物と野菜の低摂取が ESCC の約 9%を説明できた。</p> <p>結論： 大量飲酒と喫煙が重なることによる ESCC の発症は男性では 4 割弱を占めた。女性においては、これらの要因によって 5%程度を説明するにすぎず、栄養摂取の悪さも関係しているかもしれない。</p>		